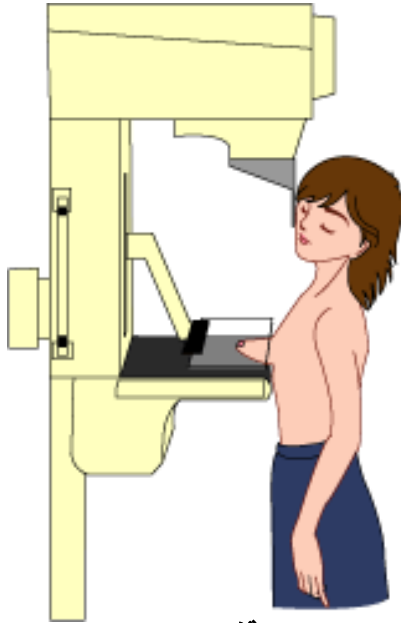


# 乳癌検診

乳癌（がん）は女性の癌の中で発症率が最も高いことで知られていますが、5年生存率は胃癌、大腸癌、肺癌、膵臓癌よりも高く、完治する可能性が高い癌とされています。特に初期の段階で発見され適切な治療を行えば、5年生存率は95%以上と高く、決して怖い病気ではありません。しかし残念ながら、症状がないから大丈夫、自分は乳癌にならないだろうと検診を受けずに発見が遅れてしまうことが多いのが現実です。乳癌から身を守るためにはしっかりと検診を受けることが大切です。



マンモグラフィー



超音波検査

平成 29 年度から桐生厚生総合病院における乳癌検診の内容が変わりました。従来は視触診とマンモグラフィーの両方を受けることが一般的でしたが、改定後は原則としてマンモグラフィーのみの検診となります。ただし乳腺の視触診と超音波検査はオプションとしてどちらか一方をマンモグラフィーとセットで受けることは可能です。視触診が乳癌検診から外された理由は、下記のように乳腺の視触診には乳癌の死亡率減少効果がないので乳癌検診として推奨はしない、という厚生労働省の指針が出されたからです。

マンモグラフィーは現在乳癌検診において唯一死亡率減少効果が確認され、最も有効な検診法であるとされています。しかし、40歳台までの若年女性は乳腺組織がまだしっかりと残っており、マンモグラフィーで癌を見つけることが難しいことがあります。こういう場合は超音波検査が有用であると言われています。40歳台の乳癌検診において、マンモグラフィーと超音波検査を併用すると、マンモグラフィーと視触診の併用の場合に比べて、マンモグラフィーで発見できなかった早期乳癌の検出率が約8倍すぐれていることがわかっています。よって特に40歳台の方にはマンモグラ

フィーと超音波検査の併用検診を受けることをお勧めします。

マンモグラフィーも超音波検査も当院では女性技師が行います。体にも負担が少ない検査でもありますので、ぜひ積極的に乳癌検診を受けていただければと思います。

## 乳癌検診実施のための新指針

（平成 28 年 6 月 13 日、厚生労働省健康局 抜粋）

**対象年齢：40 歳以上**

**検診間隔：2 年に 1 度とする。**

- 1) マンモグラフィーによる検診を原則とする。
- 2) 視触診については死亡率減少効果が十分ではなく、推奨しない。
- 3) 40 歳台では、超音波検査をマンモグラフィーと併用した場合乳癌発見率が優れていたが、死亡率減少効果については今後の検証が必要。

【副院長兼外科診療部長 待木 雄一】

